

巻頭言

地域での発想

-Think Globally and Locally, Act Locally-

北海道支所長 高橋 文敏



『それでも地球は廻っている』と主張した当時、ガリレオは天動説型（周囲がな
んと言おうと自分が絶対正しいと思い込む、自己を中心に世界は廻ると考える、困っ
た）人間と周囲からみなされたであろう。

『科学的に正しい』ということは『今』。正しいことである。

天動説型人間とつきあうのは大変だし、時には迷惑でもあるだろう。

1970年代、レクリエーションの森の基本設計のお手伝いをした。子供をはじ
めとする来訪者が好き勝手に森の中で自発的な遊びを見つけられるような『野蛮人復
帰センター』というコンセプトに設計グループは盛り上がった。今にして思えば学生
時代の気配り不足の天動説型センスで「整備費用満載（予算要求材料）の報告書を」と期待していたの
だろう依頼者の思惑とはうらはらに、キャンプ地、見本園の整備や管理用車道を見えないように配置す
るくらいで、箱もの整備は限りなくゼロに近い成果品を仕上げてしまった。『まあまあのでき』と専門
家は言ってくれたが、その後に依頼が来ることはなかった。

バブル期に試みられた地域振興計画は金太郎飴で、どこでもハード（箱もの）を競って整備する手
法をとり、ソフト的なものはどこかに置き去りにされていた。その中であって地域のリーダーが地域の
自然、人材などの資源を活かした、他から見ればユニークな取り組みを発想し、行動し、組織化したと
ころが現在注目を浴びる結果を得ている。先進的な取り組みでトップランナーとなった地域は、民間の
地域リーダーからの天動説的発想（後で考えれば地域では地道で当たり前のこと）とそれを支える団体
組織、行政による組織化を図り、ソフトを改善し、道は平坦ではないが走り続けている。

世界のニュースを見ていると Think Locally Act Globally ではないか、ときにはLocallyを
PersonallyとかSectionallyと感じる事柄が多い。地域問題を考えるときThink Globally and Locally,
Act Locallyといったあたりが好ましく思われる。

21世紀は環境の世紀、森林の世紀と言い・言われ、多様性の重視と持続可能な発展がキーワード
としてあげられ、地方分権の時代だ、との声も高い。地域のいろいろな資源を中心に据えて地域社会が
動いていくことを考える必要がある。持続可能な発展のための基準と指標というグローバルスタンダー
ドのなかに『多様性の保全』が含まれているのは考えるほどに面白い。

効率・コスト一辺倒という『多様性』とは対極側にあるコンセプトが大手を振って歩いている時代
に、存在感をもった地域があちらこちらで光を放っていることを夢想する。地域からの発想は、それが
地域に密着したものであればあるほど、中央から『天動説』的なものと見られることもあるだろう。
しかし『革命は辺境で発生する』という『科学的』な言葉もあるではないか。